

巻 頭 言

会長 阿閉 進

富山県高等学校情報教育研究会の会員の皆さまには、日頃から本研究会の運営にご理解とご協力をいただき、心から感謝申し上げます。また、皆さま方の中にはそれぞれの学校において情報教育のみならず校内ネットワーク等の管理にも寄与されている方も多いと聞きます。それらの努力に対しても改めて敬意を表したいと思います。

さて、本年度の研究大会では、日頃の様々な工夫を凝らした授業の実践的な研究発表に加え、全国大会参加の発表や「子どもたちをネット社会の被害者や加害者にさせないためのインターネット使わせ方」に関する講演などがあり、大変内容の濃い研究大会になりました。是非、各校でもこれらの成果を伝えていただき、日頃の学習指導や教材研究等に活かしていただくことを期待しております。

ところで、21世紀の時代は、政治・経済・文化をはじめ、社会のあらゆる領域での活動の基盤として、新しい知識・情報・技術が飛躍的に重要性を増す、いわゆる「知識基盤社会」の時代であると言われていています。「知識基盤社会」やグローバル化の時代には、アイデアなどの知識そのものの進展や高度の情報、技術革新が絶え間なく生まれるとされています。また、このような時代は、規制緩和などの制度改革と共に、異なる文化・文明との共存や国際協調・協力の必要性を増大させているとも言われています。21世紀に活躍する高校生にとっては、まさに自ら学び、自ら考え、主体的に判断・行動し、よりよく問題を解決するいわゆる「生きる力」を身につけなければならなりません。そのためには、情報及び情報機器等の活用する能力が必要不可欠であります。

こうした中、情報通信技術と呼ばれるICTの教育への活用が全国の学校で広がり始めています。今年度、佐賀県では県立高校の新入生およそ7000人全員がタブレット端末を購入して授業を受けています。そのことを9月に、NHKの放送番組「クローズアップ現代」で『学びを変える？～デジタル授業革命～』と題して取り上げていました。佐賀県では、少子化に直面する中で学力の向上や地域の活性化には、ICT教育がきわめて有効だと考えてタブレット端末の導入に踏み切ったようです。しかし、まだまだ手探りの状態のようです。

一方富山県でも、富山国際大学附属高等学校では今年度から生徒全員にタブレット端末を持たせ、いろいろな教科での授業研究などを通してその成果を確かめる第1回ICT教育公開研究会が開催されました。先駆者として先生方のICT教育にかける意気込みも感じる素晴らしい内容でしたが、同時に導入する端末の選定やその設定や環境整備には大変な労力が必要であることも改めてわかりました。今後ICTに関する研究がさらに広まり、活発になることを期待したいと思います。

終わりになりましたが、いつもご指導とご支援をいただいております富山県教育委員会県立学校課野崎指導主事、研究発表大会における研究発表などを快く引き受けていただいた先生方並びに情報部会をお世話いただいている役員の方々に感謝申し上げますとともに、今後の高教研情報部会の一層の発展を祈り、ご挨拶とします。